

※ 解答は、《解答らん》に書きましょう。

次は、ある物語の一部です。これを読んで、あとの問いに答えましょう。

【物語】

《場面の説明》

今治市に住む治は、小学六年生。九月末、祖父の還暦（六十歳の誕生日）を祝うため、京子の家族が五年ぶりに治の家へやってきた。京子は、治より一つ年上のいとこだった。

その日の夕方、治と治の母、七海、そして京子の三人は、家の近くの小さな店に向かった。

その店が近づいた。

「せ、ん、ざ、ん、き。せんざんきつて書いてある。」

京子は、不思議そうな顔で、店のサイズとは不釣り合いな大きさの看板の文字を読み上げた。

くすんだあずき色をした看板は、雨風にさらされる前は、きつとあざやかな赤だったにちがいない。

「京子ちゃんは、せんざんき食べたことあるかい？」

京子の横を歩く七海がたずねた。

「ないわ。だって、せんざんきつて、初めて聞いた言葉だし、こんな変わった名前の食べ物があったんだ。」

「東京では、どんなふうにいるんじゃない？」

前に行く治が、ふり返った。

「からあげ、に決まるとる。」

後ろ向きに歩きながら、治は七海の足もとに視線を落とし、早口に言った。

「えっ、からあげのことなの？」

突然、大きくなった京子の声に、治は顔を上げた。

朝、東京を発った京子たちが治の家に着いてから、小一時間が経っていた。治は、このとき初めて、近くから京子の顔を見た。昼間の熱気をどこかへ連れ去った夕風が、京子の長い後ろ髪を一、二度、軽く持ち上げた。

「わたし、からあげ、大好きなんだ。おばさん。」

七海に向かって話す京子の横顔は、やはり、治の記憶にある京子とは別人だった。治は、あわてて向き直り、歩を速めた。

「せんざんきは、今治のソウルフードじゃけんね。」

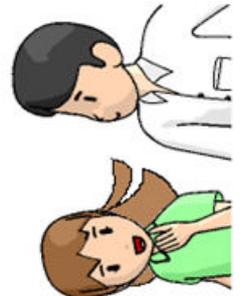
「ソウルフード？……また、わかんない言葉だ。」

「ソウルは、なんじゃろね、ふるさととか、その土地のつてことで、フードは、食べ物。」

「じゃあ、せんざんきは、昔、今治にしかなかったつてこと？」

「はつきりはわからんけど、この辺の人は、せんざんきは今治で生まれたと思つとるよ。」

すでに店の前に立ち、店主の「いらつしやい。今日も暑かつたね。」の声にむかえられながらも、治の耳は、後ろの声ばかりをひろっていた。



【スピーチ】

スピーチの話題をさがしていた宮本さんは、物語を読み、松山市にも同じような店があることを思い出しました。そして、その店の主人にインタビューをしました。

次は、宮本さんが取ったメモです。

【メモ】

- 一日にどれくらい売れるのか？
→ 多い日は、百個以上売れる。ふだんは、八十個くらい。
- どの時間帯がよく売れるのか？
→ 夕方。高校生や大学生が学校帰りに買ってしてくれるから。
- 小学生も、買いに来るのか？
→ 近所の子がよく来る。でも、高校生ほど多くはない。
- この店では、せんざんきという名前は使わないのか。
→ うちの店では、昔から、からあげと呼んでいるが、松山にも、せんざんきという名前を使っている店がある。
- どうして、せんざんきというのか？
→ ある人から、「今治の料理店があまつた骨つきのとり肉を、しょうゆ味のたれをつけてあげたのが始まりで、骨をしやぶる食べ物ということから、せんざんきと呼ぶようになった。骨をしやぶることとせんざんきという呼び方が、どのようにつながっているのかは分からない。」と聞いた。他にもいろいろな説があるようだ。

- Ⅰ 宮本さんは、次の写真を見せてから、下の□のように話し始めることにしました。
() ①、②に当てはまる言葉を書きましょう。



みなさんは、この写真の食べ物のことを (①) と呼びますか、それとも (②) と呼びますか。

- Ⅱ 【物語】と【メモ】の内容を参考にして、学級で一分間スピーチをすることとします。
次の条件に合わせて、あなたが話したいことを書きましょう。

〈条件〉

- 一の文に続ける形で書くこと。
- 一の文をのぞいて、八十字以上、百二十字以内で書くこと。
- 「東京」「今治」「松山」の言葉をすべて使って書くこと。

一 ① からあげ ② せんぞんき (順不同)

二 (例1)

東京ではからあげと呼ばれているこの食べ物を、今治の人はせんぞんきと呼ぶそうです。松山では、人によってからあげと呼んだり、せんぞんきと呼んだりするようです。ちなみに、西条に住むほくのおじさんは「ぞんき」と呼んでいます。(109字)

(例2)

東京ではからあげ、今治ではせんぞんきと呼ぶそうです。松山にもせんぞんきを使う店があるそうです。なぜそう呼ばれるようになったのかというと、今治の料理店で生まれた言葉という説がありますが、他にも説があり、はっきりとは分かりません。

(114字)